

◆ 平成 30 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：埼玉県ホタル保全連絡協議会

21A-19

代表者：会長 新井 治

URL :

1. 活動が必要とされた状況

平成 6 年 7 月に本会がまとめた「さいたまホタルマップ」では、県内でホタルが生息している市町村は 92 市町村中 52 市町村でしたが、都市化の進展によりホタルが生息していない地域、いわゆる「ホタルの空白地帯」は、確実に広がっています。

この度のシンポジウムでは、「ホタルも人も共に輝くまちを目指して」をテーマに、都市近郊に暮らす様々な人たちが集い、農業者や生活者の立場、教育や子育て世代の立場から、ホタルが棲める環境を「まちづくり」の視点から考える契機にしていきます。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など

(1) 活動時期 平成 30 年 6 月 30 日（土）

13:00～16:30

(2) 開催場所 さいたま市「市民会館 いわつき」

(3) 参加人数 79 名

(4) 活動内容 「ホタル輝く彩の国シンポジウム 2018」

①基調講演 獨協大学学長 犬井 正 氏

「生き物と共に暮らす環境づくり

～蛍の保全と錦鯉の放流に学ぶ～」

②パネルディスカッション

小林勝一 氏（さいたま市農家）

栗原 保 氏（岩槻区市民まちづくり協議会理事長）

井上 務 氏（日本ホタルの会 理事）

新井 治 氏（埼玉県ホタル保全連絡協議会 会長）

<進行：埼玉県ホタル保全連絡協議会 鈴木正明氏>



3. 活動の成果

シンポジウムの開催により、ホタルの棲めるまちづくりに対する関心と理解が深まりました。また、ホタル保全活動団体をはじめ、農業者や市民活動団体などとの交流を通じて新たなネットワークづくりが推進されました。

さらに、「国連生物多様性 10 年」の目標年である 2020 年に向け、ホタルを通じて多くの市民に生物多様性保全への理解と地域からのアクションの必要性を啓発することができました。



4. 今後に残された課題

今年度のシンポジウムを契機として、平成 32 年の本協議会設立 30 周年に向け、さらなる活動の推進とネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えています。